



公益財団法人

日本学術協力財団

Newsletter of Japan Science Support Foundation

ISSUE 42, July 2023

Newsletter

令和4年度事業報告・収支決算

令和4年度事業報告及び同年度収支決算については、リモート会議形式にて理事会を6月1日に、評議員会を6月19日に開催し、それぞれ原案どおり、議決、承認されました。

その概要は以下のとおりです。

令和4年度事業報告

1 経常的な法人運営

(1) 学術情報の収集調査及び情報発信・普及啓発（公益目的事業1）

①『学術の動向』の発行

総合学術情報誌『学術の動向』を発行した。同誌には、国内外の学術の動向を特集するほか、日本学術会議の活動状況を紹介し、広く、大学、研究機関、学協会、一般に周知した。

令和4年度においては、同誌の季刊化につき、令和5年4月の季刊第一号刊行を目標として検討と準備を進めた。

②『学術会議叢書』の発行

学術及び学術研究の成果を社会一般に普及するため、日本学術会議が主催した公開講演会の記録を基に関連資料及び解説を加えて編集した『学術会議叢書』を刊行しており、令和4年度は次の1冊を刊行した。

学術会議叢書30『人間の尊厳とは—コロナ危機を経て—』

学術会議叢書30は、公益財団法人一ツ橋総合財団からの助成を受けて、全国約1,500か所の国公立図書館・大学等に寄贈するとともに、賛助会員たる学術団体等に無償配布した。

(2) 学術連携推進事業（公益目的事業2）

①科学者連携事業

日本学術会議主催の講演会、シンポジウム等の事業について、学術普及・啓発事業の一環として協力した。

②学協会に関する実態調査及び調査結果の情報発信

—「データベース『学会名鑑』Web版」

「データベース『学会名鑑』」については、毎年度、協力学術研究団体の実態調査を基に、データの整備・公表を行ってきた。

this issue

令和4年度事業報告・収支決算
賛助会員の状況
学会名鑑について
出版物のご案内

公益財団法人日本学術協力財団は、賛助会員と助成金・寄付金を拠出いただいた方々のご厚意により、運営されています。

— 編集・発行 —

公益財団法人
日本学術協力財団
〒107-0052

東京都港区赤坂4-9-3

TEL 03-3403-9788

FAX 03-5410-1822

URL <http://jssf86.org/>

2023年7月1日発行

令和4年度からは、同システムの開発・運用が、従来担当していた国立研究開発法人科学技術振興機構から日本学術会議に移管され、これをうけて、日本学術会議において同システムの改修工事が進められた。なお、今後、科学技術振興機構からは、必要に応じて、専門的知見に基づく助言を求める。

(注) 同システムの改修工事中は、日本学術会議のサイト「日本学術会議協力学術研究団体」により学協会等関係方面に対する情報提供が行われた。

当財団においては、新システム運用の充実に向けて連携していくとともに、日本学術会議が毎年度行う協力学術研究団体実態調査の実施を同会議より受託し、関係データの整備、充実に努めた。

(3) 学術関係団体運営支援

日本学術会議同友会、日本生命科学アカデミー、日本農学アカデミー、硬組織再生生物学会等、学術関係団体からの要請を受けて、各団体活動に係る事務の支援を行った。

2 事業運営及び法人財政の改革

(1) 「学術情報の収集調査及び情報発信・普及啓発」(公益目的事業1)の改革

—「科学と社会」に関する発信の一層の強化

①『学術の動向——科学と社会をつなぐ』の改革

同誌については、科学と社会を双方向につなぐ学術誌への改革を基本方針として引き続き誌面の刷新を続けた。

同誌各号においては、下記「科学と社会研究会」関係科学者の論考、原田弘二基金関係若手科学者の論考等を随時掲載した。

特に、令和4年度においては、令和5年度からの季刊化を目指して、掲載論考査読の充実と同時に「科学と社会をつなぐ」という同誌刊行の基本理念の下、専門分野に偏ることなく分野横断的な内容を平易に表現するとの同誌編集方針を継承、強化して科学者コミュニティの総合的、俯瞰的助言活動に資するよう検討と準備を進めた。

②「科学と社会」に関する発信 —「科学と社会研究会」

「科学と社会研究会」の議論を引き続き推進した。

同研究会の重要テーマである「第三カテゴリーの研究」(既存の研究支援の枠から外れた「純粋な好奇心」に基づく研究)に関しては、同研究会の「種」を発掘する調査研究を引き続き進めた。

③ 原田弘二基金による国際活動 —第12回グローバルヤングアカデミー年次総会の日本開催

原田弘二基金による国際活動としては、第12回グローバルヤングアカデミー年次総会日本開催に対して同基金として共催した。

同年次総会は、以下の通り開催された。

- 開催期間 令和4年6月12日から17日まで
- 参加者 80か国791人
- 会議方式 各国科学者が参加するオンライン会議(夜の部)と国内の参加科学者によるリアル会議(会場九州大学・昼の部)との二部制。なお、上記の国内参加科学者によるリアル会議については、地元(福岡市及び同周辺)高校生・大学生・大学院生とのワークショップを開催した。

○テーマ及びプログラム

主テーマ「感性と理性のリバランス—包括性と持続性に向けた科学の再生」

[プログラム]

- ・プレナリーセッション(全体会議)

テーマ:「社会の中の大学:持続的で包括性のある社会を実現するための公共プラットフォームとしてのあり方」

- ・パネルセッション(討論会)

テーマ:「シチズンサイエンスを促進する社会システムの構築を目指して」

(注)シチズンサイエンスとは:一般市民と科学者や研究機関との協調により行われる科学活動

- ・市民公開講座・ワークショップ

テーマ:「創造する未来と科学の可能性」

*第12回グローバルヤングアカデミー年次総会は日本学術会議若手アカデミーが主催するが、同時に、原田弘二基金としてこれまで進めてきたシチズンサイエンスに関する公開シンポジウム等異分野交流研究活動の成果を各国若手研究者と共有し、さらに発展・深化させる機会として位置づけられる。

この観点から、同基金として同年次総会を共催することとし、所要の資金援助を行った。

(2) 法人財政の改革

上記の事業展開を支える法人財政の改革として、以下の取り組みを推進した。

① 賛助会員拡大策の推進

引き続き日本学術会議会員・連携会員、学協会等関係方面に対し賛助会員加入を求めた。

特に、令和4年度は、令和5年度からの『学術の動向』季刊化に向けて、同誌読者層の拡大と同誌事業の財務基盤強化を図るために日本学術会議と連携して取り組んだ。

具体的には、日本学術会議の令和5年3月17日「ニューズメール」において当財団吉川弘之会長、日本学術会議菱田公一広報委員長・副会長及び同会議所千晴「学術の動向」編集分科会委員長（当財団『学術の動向』編集委員長）の連名により「科学者コミュニティの活性化のために一科学と社会をつなぐ『学術の動向』の役割」として、日本学術会議会員及び連携会員各位に対して季刊『学術の動向』の積極的活用と支援を求めた。

②『学術の動向』季刊化による同事業収支改善策の検討

『学術の動向』の季刊化は、上記2(1)①のとおり、同誌内容の刷新と質の向上を図るものであるが、同時に、同誌刊行事業の収支改善を目指すものでもある。

このため、同誌季刊化による同事業収支の改善について、令和4年度を通じて具体的な検討作業を進めた。

『学術の動向』季刊化について

『学術の動向』の内容刷新と質の向上を図り、より魅力的な雑誌とするために、令和5年度から大幅な見直しを行いました。

具体的には、まず、発行頻度を現在の毎月一回から四半期に一回に変更（季刊化）し、編集委員会において十分に議論したテーマに沿って、充実した内容となるよう編集しています。その際に、査読も行うことにより、掲載論文の質の確保を図り、学術誌としての価値を高めていきたいと考えます。

『学術の動向』は、従来から「科学と社会をつなぐ」という基本的考えのもと、特定の狭い専門分野に偏ることなく、分野横断的な内容を平易に表現するよう努めてきたところですが、この編集方針は変えることなくより一層強化して科学者コミュニティの総合的、俯瞰的助言活動に資することとしたいと思えます。また、季刊化にあたり、判型をA4判からB5判に改めました。

以上のような『学術の動向』改革は、科学者コミュニティ及び社会における一層の普及を目指すものであり、科学者コミュニティの代表機関である日本学術会議会員・連携会員はもとより、科学者、市民のみならずのこれまでも増しての活用を期待します。

令和4年度収支決算

令和4年度決算の要点は、以下のとおりです。

令和4年度正味財産増減計算書

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

(単位：千円)

科 目	決算額
I 一般正味財産増減の部	
1 経常増減の部	
(1) 経常収益	
基本財産運用益	323
受取会費	15,664
事業収益	7,264
受取補助金等	1,500
受取寄付金振替額	20,071
受取寄付金	20
雑収益	567
経常収益計	45,409
(2) 経常費用	
事業費	36,322
管理費	7,787
経常費用計	44,109
当期経常増減額	1,300
2 経常外増減の部	
(1) 経常外収益計	0
(2) 経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	1,300
一般正味財産期首残高	8,111
一般正味財産期末残高	9,411
II 指定正味財産増減の部	
受取寄付金	0
一般正味財産への振替額	△20,071
当期指定正味財産増減額	△20,071
指定正味財産期首残高	139,084
指定正味財産期末残高	119,013
III 正味財産期末残高	128,424

賛助会員の状況

当財団の令和5年3月31日現在の賛助会員数は、次のとおりです。(単位：人・法人)

	区分	個人	学術団体	企業等	合計
3年度	入会	14	1	0	15
	退会(逝去含)	35	2	0	37
	年度末現在	1,080	131	2	1,213
4年度	入会	5	0	0	5
	退会(逝去含)	56	2	0	58
	年度末現在	1,029	129	2	1,160



学術会議叢書最新号
『人間の尊厳とは
—コロナ危機を経て—』
A5判、238頁
1,980円(税込・送料別)
賛助会員は割引価格
1,782円(税込・送料無)

出版物のご案内

※お申込みはFAXにて 03-5410-1822
品切れを除く近刊の書籍については
Amazonからもお買い求めいただけます。

学術の動向

『学術の動向』は、令和5年度より、季刊化いたしました。
年4回(4月・7月・10月・1月)発行し、版型をB5版に改めました。

B5判・本体価格 1,650円(税・送料込)
年間購読 6,006円(税・送料込)
賛助会員は毎号1冊無料配布

令和5年4月号 特集『これからの学術・教育と社会』
[インタビュー] 大隅良典/隠岐さや香/蟹江憲史
[特別寄稿] 田中優子/羽入佐和子



学術会議叢書

A5判 1,980円(税込・送料別)
賛助会員は割引価格 1,782円(税込・送料無)

- | | |
|----------------------------|---------------------------------|
| 2 科学技術教育の国際協力ネットワークの構築 | 22 地殻災害の軽減と学術・教育 |
| 9 医療事故は予防できるか | 23 子どもの健康を育むために |
| 12 どこまで進んだ男女共同参画 | 24 〈いのち〉はいかに語りうるか? |
| 16 食の安全を求めて | 25 IT・ビッグデータと薬学 |
| 17 グーウィンの世界 | 26 社会脳から心を探る |
| 18 科学を文化に | 27 持続可能な社会への道 |
| 20 放射能除染の土壌科学 | 28 日本の食卓の将来と食料生産の
強靱化について考える |
| 21 高レベル放射性廃棄物の
最終処分について | 30 人間の尊厳とは |

日学新書

新書判 本体価格 825円(税込・送料別)
賛助会員は割引価格 743円(税込・送料無)

- 2 感覚器 [視覚と聴覚] と社会とのつながり



◎ 当財団の運営、ニュースレター等に関するご意見、ご要望がございましたら、当財団総務担当までお寄せください。

今後の参考にさせていただきます。皆様方のご意見、ご要望をお待ちしています。

公益財団法人日本学術協力財団

〒107-0052 東京都港区赤坂 4-9-3
TEL 03-3403-9788
03-5410-0242
FAX 03-5410-1822
URL <http://jssf86.org/>